

# 学校において予防すべき感染症及び出席停止の期間について

第一種	病名	主症状	潜伏期間	感染経路	感染期間	出席停止期間	備考
第二種	インフルエンザ （特定鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く）	高熱（39～40℃）、倦怠感、頭痛、腰痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻汁	1～4日	飛沫接触	発熱1日前から3日間をピークとして7日目頃まで	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 発熱や意識の様子に気をつける
	百日咳	連続して止まらない咳が特徴	7～10日	飛沫接触	咳が出現してから4週目頃まで	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	生後3か月未満の乳児では、呼吸が出来なくなる発作、脳症などの合併症に注意
	麻疹（はしか）	発熱、咳、くしゃみ、鼻汁、目の充血、口内の頬粘膜にコプリック斑（白い斑点）、発疹	8～12日	空飛沫接触	発熱出現1～2日前から発疹出現4日目頃まで	解熱した後3日を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 ※麻疹（疑い含む）と診断された場合は、ただちに、学校（園）に連絡してください。
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺・顎下腺の腫れ・痛み	16～18日	飛沫接触	耳下腺等の腫れる1～2日前から腫れた後5日後まで	耳下腺、顎下腺、または舌下腺の腫脹が発現した後、5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	無菌性髄膜炎、難聴などの合併症に注意 思春期以降は、精巣炎、卵巣炎の合併あり
	風疹（三日はしか）	発熱、発疹、リンパ節の腫れ	16～18日	飛沫接触	発疹出現7日前から出現後7日目頃まで	発疹が消失するまで	妊娠早期の感染は、出生児に高い頻度で先天異常を認める ※風疹（疑い含む）と診断された場合は、ただちに、学校（園）に連絡してください。
	水痘（みずぼうそう）	発疹→水疱→膿疱→かさぶた 軽い発熱	14～16日	空飛沫接触	発疹出現1～2日前からすべての発疹がかさぶたになるまで	すべての発疹が、かさぶたになるまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意
	咽頭結膜熱（プール熱）	高熱（39～40℃）、のどの痛み、結膜充血、目やに	2～14日	飛沫接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が最も多いが、その後数か月排出が続くこともある	主要症状が消退した後、2日を経過するまで	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	結核	軽い発熱、2週間以上続く咳、全身倦怠感	2年以内、特に6か月以内	空飛沫	喀痰の塗抹検査で陽性の間	病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	家族内感染に注意
	髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐	4日以内	飛沫接触	有効な治療を開始して24時間経過するまで	病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ	激しい水様性下痢、嘔吐	1～3日	経口			
	細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢、嘔吐	1～3日	経口			
	腸管出血性大腸菌感染症（O-157等）	腹痛、水様性下痢、血便	10時間～6日	接触 経口	便中に菌が排出されている間		溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意
	腸チフス	持続する発熱、発疹	7～14日	経口		病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	パラチフス	持続する発熱、発疹	7～14日	経口			
	流行性角結膜炎（はやり目）	結膜充血、まぶたの腫れ、目の異物感、目やに	2～14日	飛沫接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が最も多いが、その後便からは数週間～数か月続くこともある		角膜に傷が残ると、視力障害を残す可能性がある ※医師の許可があるまで、プールには入らない
	急性出血性結膜炎（アポロ病）	結膜出血、結膜充血、まぶたの腫れ、目の異物感、目やに	1～3日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週間～数か月間		※医師の許可があるまで、プールには入らない
第三種 その他の感染症（主な疾患）	感染性胃腸炎 （ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症等）	嘔吐、下痢	ノロウイルス：12～48時間 ロタウイルス：1～3日	飛沫接触 経口	感染力は急性期が最も強いが、便中に3週間以上排出されることもある		下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
	溶連菌感染症	発熱、のどの痛み、扁桃の腫れ、ぶつぶつのある赤い舌、発疹とびひ（伝染性膿痂疹の欄を参照）	2～5日	飛沫接触	適正な抗菌剤治療開始後24時間以内に感染力は失せる		リウマチ熱や腎炎の合併症に注意 適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て、全身状態が良ければ登校可能
	急性細気管支炎（RSウイルス感染症等）	発熱、鼻汁、咳、「ゼイゼイ」「ヒューヒュー」という呼吸音	4～6日	飛沫接触	3～8日		発熱・咳などの症状が安定し、全身状態が良ければ登校可能
	伝染性紅斑（リンゴ病）	かぜ様症状の後に、両頬に少しもり上がった赤い発疹	4～14日	飛沫	かぜ症状出現から発疹が出現するまで	条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例	発疹のみで全身状態が良ければ登校可能
	マイコプラズマ感染症	激しい咳、発熱、頭痛	2～3週間	飛沫	症状のある間がピークであるが、保菌は数週間～数か月間持続する		症状が改善し、全身状態が良ければ登校可能
	手足口病	軽い発熱（2～3日）、口の中に水疱ができ痛む、水疱は手足やお尻にもできる	3～6日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週間～数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱（39℃以上）、のどに水疱ができ痛む	3～6日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週間～数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	伝染性膿痂疹（とびひ）	水疱や膿疱が破れてただれ、かさぶたをつくるかゆみ	2～10日	接触	水疱から膿の出る間 〔かさぶたにも感染性が残っている〕	通常出席停止の措置は必要でないと考えられる感染症の例	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	伝染性軟属腫（水いぼ）	中心にくぼみをもつ1～5mmのいぼが、からだ・手足にできる	2～7週	接触			プールの入水は、化膿したり、悪化していない場合は通常許可してよい *タオル等の共用は避ける
	アタマジラミ	一般に無症状、吸血部位にかゆみ	産卵からふ化まで：10～14日 成虫まで：2週間	接触	シラミと卵がいなくなるまで		発見した場合、学校薬剤師の指示のもと、早期駆除を行う *タオル・くし・帽子等の共用は避ける

\* 参考文献：「学校において予防すべき感染症の解説」文部科学省（平成25年3月）、「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会（2017年4月改訂版）